



MBT NEWS LETTER

第164号
'22/08/29

< MBT在宅遠隔医療部会 在宅看護分科会 > 8月24日、在宅医療ケアの第一線でご活躍の 講師とゲストを迎え基調講演と鼎談を実施



・在宅遠隔医療部会の“在宅看護分科会”は、8月24日、在宅医療ケアの第一線で活躍の3人の講師をお招きし、講演と鼎談を通して、在宅医療ケア現場の現状と課題、将来展望を聴く催しを、奈良医大看護学科の教室で実施し、その模様はWEBでも発信を行いました。

・本催しの参加は、この分野に関心を寄せているMBTコンソーシアム会員企業、および奈良県のみならず全国各地域の看護や介護、地域包括ケアシステム等に関わる皆様で、現地参加26名、WEB参加124名の合計150名と、皆様の関心の高さを窺うことができました。

・**基調講演**の在宅ケア移行支援研究所の**宇都宮宏子氏**は「地域で暮らし、そして“生きる”に伴走する医療の在り方」のタイトルで、**看護者には患者の意志を尊重し、入院看護時から退院後の在宅移行にむけた地域包括システム視点での接し方が重要**、と強調されました。

・**鼎談**は奈良医大看護学科の**小竹久実子教授**が進行を務めて行われました。

・**ゲスト参加**の宇陀地域医療・介護連携ネットワーク運営協議会代表理事の**加藤久和氏**は「地域包括ケアを推進するための街づくり」のタイトルで、医療情報と介護情報を一元化した双方向性システムで、2019年から本格運用を行い、86施設で7000人を超す地域住民参加の宇陀けあネットの効果と課題を紹介されました。

・**ゲスト参加**の秋津鴻池病院看護部長の**野村佳香氏**は「在宅看護の現状と課題」のタイトルで、情報共有iPadを活用した訪問介護支援システム紹介と地域の思いに応えるためのお断りゼロ、お待たせゼロの取組を紹介されました。

・**鼎談**では、地域病院の電子カルテや外来患者の看護師記録も情報共有できる宇陀けあネットの様な情報共有ツールの重要性を認識し、住民にプラスとなるコストパフォーマンスにすぐれた運用が論じられました。



←基調講演の
宇都宮宏子氏
↓鼎談進行役の
小竹久実子教授



←鼎談に参加の
加藤久和氏



←鼎談に参加の
野村佳香氏

本催しの見逃し配信をYouTubeで行います。

但し非公開データを削除しています。

<https://youtu.be/BOUWPj1fxhE>



発行